

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171700525		
法人名	有限会社 耕グループ		
事業所名	グループホーム くわのみ		
所在地	岐阜県恵那市岩村町飯羽間字塔ヶ根1621-6 (電話) 0573-43-5135		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年9月5日	評価確定日	平成20年10月31日

【情報提供票より】 (平成 20 年 8 月 18 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 21 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 6 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000~ 円	
敷 金	有 (100,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 (退去時修復費差引)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,170 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 18 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険上矢作病院、くらし歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、自然環境に恵まれた小高い丘に位置しており、眼下には、国道を挟んで利用者の買い物にも便利なショッピングセンターや商店群が見えている。隣接には、代表者が運営する認知症対応型通所サービス、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の3事業所があり、緊密な連携を取りながら、地域福祉の発展に熱意を持って取り組んでいる。木の太い柱を中心とした居間は、温もりのある家庭的な雰囲気が感じられ、利用者のコミュニケーションの場所になっている。事業所内外の研修会や学習会の機会が多く設定され、人材の育成にも積極的に取り組んでいる。職員の定着もよく、利用者との関係が維持されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題であった自己評価の全員参画は、職員会議を充実し、意見を集約できるようになった。家族への報告や家族の意見を運営に反映させる課題は、文書での報告と対応方法を整えた。介護計画の作成における家族との関係は、今後も検討課題となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・役職者だけでなく、職員全員が評価の意義を理解し、職員学習会で取り上げながら、日常の業務の振り返りの場としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3~4ヶ月毎に行われ、運営報告や意見交換が行われている。地域との防災協力体制や医療対応の課題も検討され、サービスの改善に反映されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に家族の意見を聴くことが多く、利用者の暮らしぶりや表情に対する意見も寄せられ、事例ごとに家族と十分に話し合いながら対応策を講じている。家族会は年2回行われ、意見交換の場になっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の地区総会やイベント、地域のサークル活動にも参加し、地域住民との交流を積極的に進めている。今年度からは、住民が提供するホーム周辺の畑の耕作、庭や樹木の手入れ等は、これまで無償ボランティアであったが、有償ボランティアに変更して、日常的に係わってもらっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表者は、複数の介護事業を運営する中で、地域との交流を大切にしながら、利用者に寄り添い、利用者の思いを尊重したケアを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員の研修会や定期的に行われる職員会議、学習会で理念の共有を図っている。理念の実践の評価・点検を位置づけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の介護者の集い「まめな会」が毎月行われ、相談を受けたり、講師の立場でも参加している。地域の行事である定期総会やホテル祭りなどに参加し交流している。また、地域の有償・無償のボランティアが日常的に訪れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価および外部評価は、管理者・主任・副主任を中心に全職員の意見を取りまとめ、評価結果を改善に向けた取り組みに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3～4ヶ月に1回行われ、ホームの運営報告と意見交換が行われている。さらに会議では、防災協力体制が討議され、住民の協力では、避難訓練への参加があり、一定の成果を得ている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市高齢福祉課および地域包括支援センターと連携を取りながら、情報の把握に努めると共に、市の主催する会議には積極的に参加し、サービスの質の向上に反映させている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書・領収書送付時に、個別に暮らしの様子を文書で報告している。定期的には法人発行の「くわのみ通信」でホーム全体の様子も伝えている。健康状態に変化があれば速やかに電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時、年2回の家族会、運営推進会議の家族代表より、様々な意見が述べられている。近くの提携医院との契約解除問題では、家族説明会を開催し、理解を求めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率がよく、昨年10月以降は離職はない。代わる場合のダメージ防止策には、現職者とのペアを組むことで対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で多様な学習の機会を設けている。「観察と記録の学習会」を定期的に、また、月1回の「職員学習会」、年1回の「全職員研修会」を行っている。外部研修には研修費用を援助し、参加を奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市と南知多町のグループホームとそれぞれに交流し、職員と利用者が相互に行き来する機会を持っている。立地環境の違いによる事業運営などを学び合っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学や空室があれば、体験入居を1週間できることを、パンフレットに明記しており、調査時も1名が体験入居中であった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とは、ゆっくりお茶を飲みながら会話する時間を多く設けている。昔の暮らし振りや戦争体験、歴史等を学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	酒を飲みたい人、此処を終の棲家にした人、健康で100歳まで生きたい人など、様々な希望や思いを日頃の会話の中から把握し、それぞれの気持ちを尊重しながら張り合いと潤いのある暮らしを支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、事業所が主体的に作成しているが、家族や必要な関係者とは時間的な調整が難しく、話し合いは十分に行われていない。	○	利用者本位の介護計画の作成には、家族や関係者の意見を取り入れ、反映させることが望ましい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングは行っているが、介護計画の見直しについても、家族や関係者との時間的な調整が難しく、話し合いは十分に行われていない。	○	状態の変化が生じ、随時見直しを行う時の家族への説明・連絡方法、介護計画変更の同意等、適切に行えるための関係づくりに期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間の医療連携体制支援、受診・通院の送迎支援、美容師資格のある職員による整髪支援があり、利用者や家族から喜ばれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が契約した協力病院でもあるかかりつけ医に受診している。協力病院からは、月2回の往診があり、一部の利用者には、精神科への定期受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けては、かかりつけ医、隣接の訪問看護ステーションと連携して取り組んでいる。終末期への対応は、近い段階で家族・関係者と十分に話し合い、同意を得て受け入れる方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄・整容・入浴時には、言葉かけに十分配慮し、さりげない対応に努めている。個人情報の取り扱いについては、慎重に注意深く管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合より、利用者の希望を優先させている。花の水やりを一手に引き受けている男性、看護師であった人は、バイタルやカット綿準備の手伝いをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に、畑で野菜の収穫、食材の買い物、食材の下準備、配膳や片付けも手伝っている。職員も一緒に食事を摂り、にぎやかで楽しい食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後から入浴できるように準備しており、風呂好きな人は毎日入浴している。消極的な利用者には、気持ちよく入浴できるように、タイミングを図ったり、声かけを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水やり、洗濯たたみ、食器洗いなど、利用者が進んで役割りを担っている。趣味の俳句やぬり絵、卓球を楽しむ人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、ホーム周辺を散歩したり、買い物や隣接のデイサービスに遊びにいたり、庭に出て、八重桜の大木の下にある長椅子で会話を楽しんだり、日常的に戸外に出ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	来客用の玄関は死角になるので施錠しているが、通常職員や利用者が出入りする通路の戸は、見守りが容易であるため開錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間・夜間とそれぞれに避難訓練を実施している。その際には、近所の人達の参加もある。また、管理者が防火管理者講習を受講しており、職員の防災意識向上に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は、毎日記録され、一人ひとりの健康管理に活用されている。糖尿病の人には、味付けや摂取量に配慮している。水分量はおよその把握である。	○	1日の水分補給量を把握しておくことは、高齢者の健康管理に必要なことであり、食事の時、おやつの時間、夜間居室等での摂取量を総合的に把握できる記録方法を工夫されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、採光や通気も良く、快適である。見晴らしの良い広いデッキやくつろげる畳のコーナーもある。居間は、四季折々の花で飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、思い出の写真のほかには、馴染みの品物が少なく簡素である。	○	本人や家族には、これまで使っていた物品や好みの物などを持ち込んでもらうよう働きかけ、居室が少しでもその人らしい暮らしの場所となるよう工夫されたい。

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。